

P I a n

D o

S e e

小教研創立 60 周年に思う

朝日町立さみさと小学校

校長 水島 文明

富山県小学校教育研究会が昭和 24 年 4 月に創立され今年で 60 周年ということで、去る 8 月 21 日に県民会館大ホールで記念式典が催されました。私は祝意を表する機会を得たのですが、小教研創立以前のことなど言い足りなかったこともあり、これからの教育についての願いも含めて、改めて思いを述べてみたいと思います。

小教研は、戦後の本県初等教育界に再起の気迫と清新の気風をよみがえらせるとともに、「全国に誇る富山県小教研」という言葉が示すように、高い評価を受けるまでに発展してきました。私たちは、このような歴史を築き、富山県教育の充実に尽力されてこられた先輩諸氏に対し心から敬意を表するとともに、その情熱を受け継ぎ、本県小学校教育に職を奉ずるものとしての誇りと責任をかみしめながら未来へ飛躍することを誓い合わなければなりません。

再起の気迫と清新の気風をよみがえらせたということはそれ以前に活発な時期があったということです。それが大正期です。「大正デモクラシー」の評価は別として、教育史的にみれば、大正時代は近代的子ども観と児童中心主義の教育思想に基づく新教育運動や芸術教育運動が開花したときです、中でも雑誌『赤い鳥』の創刊は、その後、童謡や童画、児童劇、さらには綴方や児童自由詩・児童自由画と発展し、今日の児童文化の源流のひとつとなっています。信濃教育会も『白樺』に影響を受けた人道主義的教育で気を吐いていたのはこの頃です。富山県でも全国的な教育者の互研活動の機運がわきおこるなか、富山県初等教育連合研究会（大正 4 年～ 11 年）や富山県初等教育研究会（大正 12 年～昭和 15 年）が組織され、活発な自主的研究活動が行われていました。当時の指導講師には小原國芳、小倉金之助など、今からみても目を見張るほどの一流の講師を招聘していました。これが小教研創立以前の活動であり、それをよみがえらせたということです。このことをまず知ってほしいと思います。ちなみに、さみさと小学校の前身である泊小学校の大正 11 年度の沿革誌には、「職員協同一致校風の振興を図り、11 年暮頃より県下を風靡したる児童中心主義教育に就いても真摯なる研究をなし、学習上、訓練上改新の曙光を睹るを得たり、祝福すべきことなりき」と記述されています。また、この年、学制頒布 50 年記念展覧会を開催し、白洋社同人及び卒業生が書画を出品したと記録されています。この白洋社が、当時の児童自由画教育の中心的存在として閃光を放っていたのではないかと研究している人がいます。情報が集まり研究が進展することを祈っています。

我が朝日町には、子どもの発達を願う純粋な気持ちで教育の研究に取り組み、子どもの姿をとおして自己を反省し、たえず向上を図ろうとする実践的態度と進取の気概が昔からあったのです。これを単なる過去の郷愁にしてはなりません。

伝統ある朝日町の教師であることに誇りと情熱をもって子どものために頑張る教師たちが、教育センターを中心にスクラムを組んで活動することを念願しています。

